

# 音楽科研究部会

## I 研究テーマ

「私の音楽 みんなで音楽」～音楽を形づくっている要素を感受し 自ら広げる音楽の世界～

## II 研究テーマ設定の理由

音楽科においては、子どもたちが楽しく進んで創造的に音楽活動に関わりながら、音楽の喜びを体得し、生涯にわたって音楽に親しむことができるよう研究を進めている。

子どもたち一人一人の主体的な音楽活動を支えているのは、「楽しく音楽活動をしようとする」「進んで音楽活動をしようとする」「創造的な音楽活動をしようとする」などの心の働き（興味・関心）である。活動の結果得られる成就感や満足感を支えるのもこの心の働きである。これらの心の働きを高めると共に、音楽活動の基礎的な能力を培うことで、より豊かな音楽の力を確実に身に付けていくことができる。そして、これらの学習活動の積み重ねにより、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性が育ち、基礎的な能力が培われ、やがて豊かな情操が養われていくと考えられる。学習指導要領の改訂にともない、子どもたちが主体的・創造的に、生き生きと音楽活動に取り組み、音楽科で身に付けさせたい力を「音楽を聴く力」「音楽を表現する力」「音楽を合わせて楽しむ力」とし、これらの力を確実に身に付けていくことが、生涯にわたって音楽を愛好していく子どもの育成につながると考えた。そのための授業の工夫・改善と、子どもたちが創意工夫しながら、表現力を表出する姿を目指して研究を行ってきた。

## III 研究の経過と内容

今年度小学校部会では、低学年・高学年ブロックに分かれ、それぞれ授業研究、他ブロックの授業参観、個々の部員の実践を持ち寄り検討する実践研究を行った。また、音楽づくりの講習会を実施し、様々な内容で研究を進めてきた。

- 4月10日 第1回甲教協部会研究会（研究のテーマと研究方法の決定）
- 5月15日 第2回甲教協部会研究会（研究計画）
- 6月17日 第3回甲教協部会研究会（ブロック研究会）
- 8月7日 第4回甲教協部会研究会（「音楽づくり指導講習会」中島 寿先生）
- 8月20日 第5回甲教協部会研究会（ブロック研究会）
- 9月4日 第6回甲教協部会研究会（低学年ブロック授業研究会）
- 10月2日 第7回甲教協部会研究会（高学年ブロック授業研究会）
- 11月4日 第8回甲教協部会研究会（県教研還流報告）
- 1月27日 第9回甲教協部会研究会（研究のまとめと次年度の方向性の確認）

## 小学校高学年ブロック

- (1) ブロック研究テーマ 「思いや意図を持って表現する音楽作りの授業の工夫」
- (2) 研究の成果と課題

音楽を作って表現する活動は、子どもたちにとっては、自分の思いを自由に表現することのできる楽しい活動である。しかし、いざ作曲ということになると、特に高学年では、様々な難しさも出てくる。

児童の思いや意図を自由に音楽として表現させるためには、具体的にどんな指導計画を立てていったらよいのか、まとまりのある音楽を作るための具体的な手立てとは、経験の違いなどからくる個人差への対応などである。これらの課題をクリアしつつ、児童が満足できる音楽作りの授業を目指し研究を進めてきた。

研究授業では、穏やかな雰囲気の中で、児童が自分の思いを曲で表現したり、お互いの曲を聞き合ったりと、楽しく活動する姿が見られた。以下、授業研究会で話し合われた内容をもとに、成果を挙げる。

- ①初めに曲のイメージを持たせ、児童の豊かなイメージを言語化することによって満足のできる活動となった。
- ②リズム選び、和声構成音の中からの音選び、変化・繰り返しなどの構成といったスモールステップがあることで、どの児童も抵抗なくまとまりのある曲作りができた。
- ③よく知っている曲を聴いて学習することで、音楽の構成要素がよくわかり、ワークシートに書く言葉も変わってきた。

一方で、友達の曲を聴いてアドバイスすることで試行錯誤しながら曲を作ることができたという成果が挙げられた反面、肯定的なアドバイスはできるが、否定的なことを伝えるのは難しいという実態もわかった。このような経験を積み重ねることによって、イメージに近い音楽作りができるようになるのではないかという意見が出された。その他の課題としては、記譜力をつけさせてあげたいがなかなか難しいこと、経過音は使わせなかったが、やはり必要ではないかということなどが挙げられている。

授業後、創作力比べに取り組んだ。今回の授業と全く同じ流れで進めていくことができ、児童も困ることなく曲作りができた。中には、経過音を取り入れようとする児童もみられ、授業の成果が感じられた。児童も教師も難しく感じる音楽作りの授業だが、手立てを用意し、指導の段階を一つひとつ踏むことで、児童にとっても楽しく満足のいく学習活動になることがわかった。歌ったり、演奏したりといった楽しさはもちろんのこと、音楽としての基礎基本も大切にしていけることが、楽しく、自由な音楽表現につながるのではないだろうか。

## 1 小学校低学年ブロック

## (1) ブロック研究テーマ 「創作・音楽づくり」の領域における授業研究

### (2) 研究の成果と課題

学習指導要領の指導事項【A表現】(3)「創作・音楽づくり」におけるアとイについて、両方の授業実践から、アとイのどちらが先でどちらが後か、などということではなく、両者が相互に関連し合いながら、児童の音楽を創り出す力を高めていくことにつながっていくことを再認識できた。また、音楽づくりの活動は、日頃の歌唱・器楽・鑑賞活動の充実によって、より効果的なものとなる。他の領域の学習活動に支えられている内容といえる。

授業研究においては、「焦点化」・「視覚化」・「共有化」が重要な視点といえるだろう。焦点化とは、指導のねらいを絞り、音楽を形づくっている要素を活動の支えとしてスモールステップで進めていく指導計画を構築すること。視覚化とは、掲示やICTなどを駆使して、教材との出会いをわかりやすく、なおかつ体験的・感動的なものにしていく諸工夫。そして共有化とは、全員が参加し理解できる内容を構成し、子どもが自分から活動したくなるような展開を仕組んでいくことである。

困っている目の前の一人の子どもの妨げになっているものを取り除いていこうという試みの連続が、他の子どもの状態も改善することへとつながる。個の向上が全体の向上を生みだし、結果として集団やどの子どもにも「わかる」「できる」「楽しい」表現や鑑賞の学習効果をもたらすものであろう。この営みがユニバーサルデザインとして結実していく授業となる。

今年度の低学年ブロック研究は、「みんなでつくる研究授業」をめざした。全員が共通の認識のもと、自校でそれぞれに授業実践を行い、その様子や、見えてきたものを交流しながら、活動の流れやより効果的な指導法を追究することができた。授業者にとっても、話し合いの中で実践に基づくいろいろな意見を聞くことができて有意義だった。

研究授業は1年生の実践であった。常時活動としてリトミックを取り入れ、毎時間の活動がいつも楽しい時間となるような工夫がみられた。展開では、身近な言葉の中にあるリズムに着目させてその特徴に気づき、楽しくリズム遊びをする児童の姿が見られた。食べ物とオノマトペによる言葉のリズムの効用があり、鍵盤ハーモニカを用いて単音から2音に増やしたことで音遊びの幅が広がった。後半は、レストランごっこのかけあいを使って、楽しみながら音遊びをすることができた。歌や伴奏と一緒に、作ったふしを進行させていくおもしろさ、そしてICTを使用した図(楽譜に見立てたもの)の視覚化も効果的であったと思われる。

課題としては、評価活動において、ねらいを踏まえた観点ごとの評価規準をどのように設定し、みとりを行っていくか、ということが挙げられた。個々の思いや意図は表現の工夫に表れてこそ身に付いた力となるのであろう。音楽的な聴取や感受の力を育てるための重要なファクターとして、指導者は常にその時間の具体的な評価規準を明確にしておきたい。

小中9年間の「創作・音楽づくり」の学習を系統的に見たとき、そのスタートとなる低学年の授業はとても大切なものといえる。今年度扱った教材を貴重な財産として、多くの先生方が実践を行って授業を充実させ、さらにこのような財産(教材や指導法)を増やしていけるよう、今年度の成果

を来年度の研究活動へと確実につなげたい。

#### **IV 研究の成果と課題**

各ブロックで研究テーマに沿った研究が進められ、それぞれの成果が得られた。授業実践に基づいた研究を進めてきたことで、音楽科で身につけさせたい力やそのための指導の手立てについて研究を深めることができた。また、研究授業の領域を「音楽づくり」に統一したことで1年生の音楽づくりの導入段階から、6年生の自分のイメージに近い音楽づくりの様子まで分かり、それぞれの立場で意見交換をすることができた。